

「第19回石川県書写書道教育研究大会集録」の発刊によせて

石川県書写書道教育連盟会長
第19回石川県書写書道教育研究大会長
藤 則雄

石川県書写書道教育連盟は、幼稚園から大学に至る全ての学校教育機構が一体となり、授業研究を中心に、最近における書写書道に関する教育問題や教育機構に伴う教師の資質向上に力を注ぎ、児童・生徒・学生の豊かな心の育成と技の上達にも資するべく全国大会での研究発表や教材研究の討議にも積極的に参加してまいりました。

平成20年度には、12月12日に金沢市教育プラザ富樫を会場とし「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」をテーマとして大会が開催されました。

研究協議会Ⅰ 「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」

① 第33回全日本高等学校書写書道教育研究会（鹿児島大会）

漢字仮名交じりの書 さまざまな表現方法の工夫

発表者： 野田 明子（石川県立内灘高等学校）

② 第49回全日本書写書道教育研究会 参加報告

書く文化を支える書写・書道教育

発表者： 柿木 千鶴（金沢市立諸江町小学校）

③ 書道教育特区一（静岡県伊東市） 視察報告

小学校1・2年生の生活科を一部「書道科」に

発表者： 中川 晃成（金沢市立中村町小学校）

司 会 八田 和幸（金沢市立高岡中学校）

記 録 水上 真由美（石川県立金沢商業高校）

研究協議会Ⅱ 「授業実践にむけての具体的手立てを探る～授業実践から～」

④ 実践発表 「自ら考え発見する子を目指して」

～コンテンツを使った授業の工夫～

発表者： 西谷 充子（金沢市立諸江町小学校）

司 会 飯田 淳一（金沢市立大徳小学校）

助言者 谷藤 真喜子（石川県教育 Ctr.指導主事）

記 録 黒川 なつき（白山市立蝶屋小学校）

何れの話題や報告も極めて興味ある内容で、真に有意義な研究大会でありました。

本「大会集録」には、平成20年度の研究大会の報告が中心に書写書道教育に関係の諸資料も掲載されてありますので、会員各位には本誌をご参考に、日々の教育や研究の更なる進歩のための一助としてご利用たまわれれば、誠に幸いです。

平成20年度における本書写書道教育連盟のためにご尽力頂いた方々、就中、研究大会での発表・司会・助言・記録の大役を担われた先生方、大会の諸準備や本連盟の運営にご尽力された役員に敬意と心からの感謝の意を表します。

目 次

1. はじめに -----	1
2. 第19回石川県書写書道教育研究大会要項 -----	3
3. 研究協議会Ⅰ報告 -----	7
「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」	
◇第33回 全日本高等学校書道教育研究会 鹿児島大会 報告	
～漢字仮名交じりの書 さまざまな表現方法の試み～	
野田 明子 (石川県立内灘高等学校)	
◇第49回全日本書写書道教育研究会東京大会参加報告	
～書く文化を支える書写・書道教育～	
柿木 千鶴 (金沢市立諸江町小学校)	
◇書道教育特区一 (静岡県伊東市) 視察報告	
～小学校1・2年の生活科を一部「書道科」に～	
中川 晃成 (金沢市立中村町小学校)	
研究協議会Ⅰのまとめ	
4. 研究協議会Ⅱ報告 -----	29
「授業実践にむけての具体的手立てを探る～授業実践から～」	
◇実践発表「自ら考え発見する子を目指して」	
～コンテンツを使った授業の工夫～	
西谷 充子 (金沢市立諸江町小学校)	
研究協議会Ⅱのまとめ	
5. 大会に参加して -----	37
6. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ -----	39
7. 平成20年度石川県書写書道教育連盟役員一覧 -----	42
8. 石川県書写書道教育連盟規約 -----	44

第19回石川県書写書道教育研究大会

平成20年12月12日(金)

第19回

石川県書写書道教育研究大会

金沢市 教育プラザ富樫

大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

主催:石川県書写書道教育連盟

後援:石川県教育委員会

:金沢市教育委員会

:石川県私立幼稚園協会

日程

13:45~14:15
理事会

14:00~14:30
受付

14:30~15:50
全体会
研究協議会 I

16:00~16:45
研究協議会 II

開 会 (1 4 : 3 0 ~)

***あいさつ 石川県書写書道教育連盟会長 藤 則雄**

***来賓紹介**

研究協議会 | (1 4 : 4 0 ~ 1 5 : 5 0)

研究協議会 | 『書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～』

① 第33回全日本高等学校書道教育研究会（鹿児島大会）報告

～「漢字仮名交じりの書 さまざまな表現方法の試み」～

発表者 野田 明子（石川県立内灘高等学校）

② 第49回全日本書写書道教育研究会参加報告

～書く文化を支える書写・書道教育～

発表者 柿木 千鶴（金沢市立諸江町小学校）

③ 書道教育特区一（静岡県伊東市）一視察報告

～小学校1・2年生の生活科を一部「書道科」に～

発表者 中川 晃成（金沢市立中村町小学校）

司 会：八田 和幸（金沢市立高岡中学校）

記 録：水上真由美（石川県立金沢商業高等学校）

研究協議会Ⅱ（16：00～16：45）

「授業実践にむけての具体的手立てを探る～授業実践から～」

**⑤ 実践発表 「自ら考え発見する子を目指して」
～コンテンツを使った授業の工夫～**

発表者 西谷 充子（金沢市立諸江町小学校）

司 会：飯田 淳一（金沢市立大徳小学校）

助言者：谷藤真喜子（石川県教育センター指導主事）

記 録：黒川なつき（白山市立蝶屋小学校）

閉 会 （16：50～）

***あいさつ 石川県書写書道教育連盟理事長 永江 芳教**

（敬称略）

研究協議会 I 報告

大会参加・視察レポート

研究協議会 I のまとめ

第33回 全日本高等学校書道教育研究会 鹿児島大会 参加報告

石川県立内灘高校、金沢伏見高校

金沢中央高校（夜間）

非常勤講師 野田 明子

会期 平成20年11月13日(木)・14日(金)

会場 かごしま県民交流センター

日程 第1日目 総会、開会式、公開授業・研究協議、講演、教育懇談会

第2日目 分科会、全体会、閉会式、情報交換会

大会テーマ 『個を生かし、感動する心を育てる書道教育』～南国 鹿児島からの発信～

公開授業・研究協議

A 個を生かす指導と評価の一体化

書道Ⅰ 漢字の書『創作しよう～思いを文字に～』

鹿児島県立甲南高等学校 教諭 池田 光磨

鹿児島県立屋久島高等学校 教諭 鈴木 寛治

B 書を楽しみ、生活に生かす工夫

書道Ⅰ 漢字仮名交じりの書『さまざまな表現方法の試み』

鹿児島県立加世田高等学校 教諭 茶園 景子

C 郷土に根ざした書道教育

書道Ⅱ 創作『書で郷土を学ぶ』

鹿児島県立鹿児島中央高等学校 教諭 大迫 絹子

分科会

I 「個を生かす指導と評価の一体化」の実践研究

『書道Ⅱ 金文学習における指導上の留意点～個を生かした臨書と創作～』

千葉県立市原高等学校 教諭 染谷 進

『書道Ⅰ 行書の学習～個を生かす学習記録の作成～』

鹿児島県立大島高等学校 教諭 瀬筒 寛之

II 「書を楽しみ、生活に生かす工夫」の実践研究

『書を身近なものにするための工夫』

埼玉県立浦和西高等学校 教諭 遠藤 克久

『簡単に作れる一字鑄造印』

鹿児島県 鹿児島高等学校 教諭 新留 孝志

III 「郷土に根ざした書道教育」の実践研究

『～敬天愛人～ 南洲 鹿児島の 西郷どん』

兵庫県 百合学院高等学校 教諭 遠周 宏員

『薩摩藩の書道史』

鹿児島県立中種子高等学校 教諭 尾崎 里美

[参観授業より]

B 書道 I 漢字仮名交じりの書『さまざまな表現方法の試み』

指 導 者 鹿児島県立加世田高等学校 茶園 景子先生

日 時 平成20年11月13日(木)

場 所 かごしま県民交流センター 大ホールB

対象学級 1年5組10名(男子7名、女子3名)

単 元 名 漢字仮名交じりの書

単元設定の理由

1学期の導入時に中学校までの「書写」と高校の「芸術科書道」との違いを学び、漢字仮名交じり文を使用して用筆法や運筆法によって表現の幅が広がるということを学習してきた。その後、臨書を中心とした学習の中でさまざまな表現方法があるということを学んできた。創作の基本に臨書は欠かせないものである。臨書を通し多様な表現を学びながら、さらに私たちの身近にある題材を用いることで書を楽しんでほしい。また、日常生活の中に、書作品を生かす工夫をすることで、より書に親しみを持ってほしいと思う。

本単元で「漢字仮名交じり文」を用いて創作することで、自分の気持ちを反映させた自由な作品づくりに取り組み、表現の楽しさを感じさせたい。1年次は古典を基調とした創作をするには臨書学習が十分でないので、いろいろな表現方法を用いることや、自分なりの工夫をしながら作品を仕上げることで、その達成感や充実感を味わい、書を楽しみながら学習してもらいたいと思いこの単元を設定した。

単元の学習目標

- 1 用筆法や運筆法・道具などを工夫することで多様な表現ができる。
- 2 自分の気持ちにあった題材を選定し、それに合わせた表現を工夫することができる。
- 3 友人の作品を鑑賞することでその良さを味わうことができる。
- 4 書を楽しみ、生活の中に生かす工夫をすることができる。

単元の学習計画

第1・2時間目

- ・漢字仮名交じりの書について理解する。
- ・参考作品を鑑賞することでさまざまな表現方法があることに気づく。

第3時間目

- ・表現の方法にどのようなものがあるかを考え、そのテーマごとにグループを編成し、作品の原稿を作る。

第4時間目(本時)

- ・グループで協力して表現の方法を工夫し、その効果をまとめ発表する。
- ・道具や運筆法・構成などの工夫で作品の雰囲気が変わることを理解する。

第5・6時間目

- ・自分の気持ちにあった題材を選定する。

・前時に学習した表現方法の効果を参考にして、自分の意図にあった作品になるように工夫する。

第7・8時間目

- ・漢字と仮名の調和、落款の入れ方等に注意し作品を完成させる。
- ・他の生徒の作品を鑑賞する。

第9・10時間目

- ・漢字仮名交じりの書を用いて、日常生活に生かせる作品制作をする。

単元の評価規準

(関心・意欲・態度)

- ・積極的に詩歌を調べ自分の感性に合ったものを集めようとする。
- ・表現の仕方に関心を示し、工夫しようとする。
- ・グループで協力できる。

(芸術的な感受や表現の工夫)

- ・作品を鑑賞し、その良さを理解しようとする。
- ・作品について自分の意図をまとめ、表現の工夫をすることができる。

(創造的な表現の技能)

- ・グループ学習の後、自分のイメージにあった表現ができる。

(鑑賞の能力)

- ・参考作品の良さを理解することができる。
- ・他の生徒の作品を好意的に鑑賞し、良さを理解できる。
- ・自分の作品を鑑賞し、分析できる。

本時の学習目標

- ・さまざまな表現方法があることを理解する。
- ・グループ内で協力して、表現の効果をまとめる。
- ・表現の効果を理解し、自分が感じたことを発表する。
- ・積極的に作品制作に取り組む。

本時の評価規準

(関心・意欲・態度)

- ① 熱心に説明を聞いている。
- ② グループ内で協力できる。
- ③ 活動内容を理解し、積極的に取り組める。
- ④ 自分が感じたことを発表することができる。

(芸術的な感受や表現の工夫)

- ⑤ 前時の作品例で学んだことを自分の活動に生かすことができる。

(創造的な表現の技能)

- ⑥ いろいろな工夫をしながら、多くの表現方法を試すことができる。

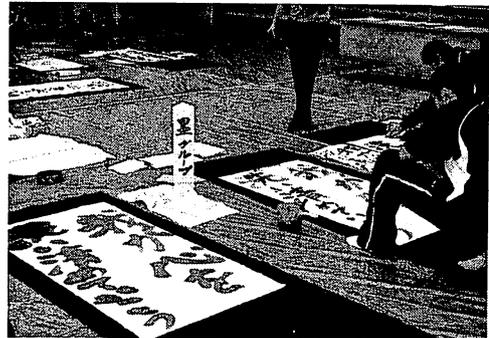
(鑑賞の能力)

⑦ 他のグループの発表を真剣に聞くことができる。

○参観授業

坂村真民の「二度とない人生だから」を筆・墨・構成の3つのグループに分かれ、前時に作った縮小版を基に全紙に書く。

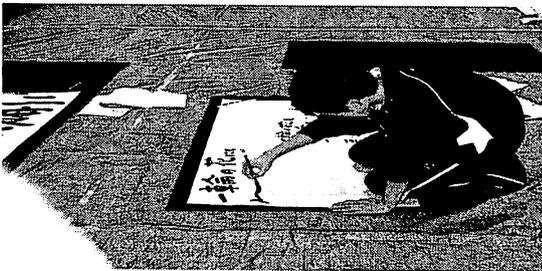
A 墨色グループ・・・濃墨、淡墨、にじみやすい紙などを使用。



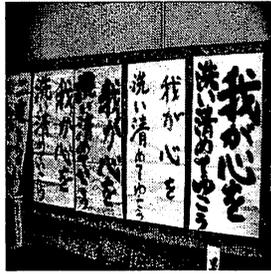
B 筆グループ・・・筆二本で書く、手作りの筆などを使用。



C 構成グループ・・・上下にわけて書く、字の大きさを工夫して書く。



作品鑑賞



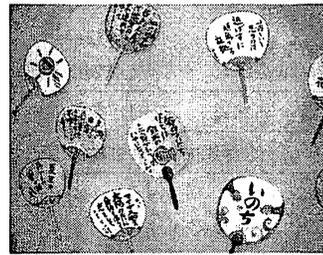
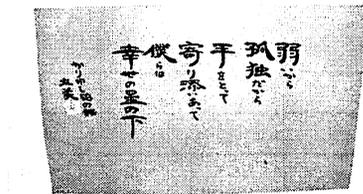
○研究協議

- ・墨・筆・構成と3つのグループに分けるのではなく、生徒が1時間の間に3つ体験したほうがいいのか？→その方法も考えたが時間の制約もあり、グループ分けをした。
- ・グループはどのように分けたのか？→自由に選ばせたら、人数、男女比がバランスよく分かれた。
- ・構成グループの生徒が一枚の紙の中で縦に書いたり横に書いたりしていたのが気になる。
→次の授業で生徒とともに考えてみたい。
- ・生徒が50分間よく集中して書いていた。
- ・楽しそうに書いていたのが印象的だった。
- ・印は押さないのか？→3学期に篆刻をするので、作品を残しておいて押印する。
- ・全紙に何枚も書くのは予算上無理なので羨ましい。
- ・自分の学校では教室が狭く、人数も多いのでこれだけのことはできない。
- ・もう少し内容を絞ってやった方がいいのでは。
- ・せっかくの全国大会なのだから、前時までの作品を掲示するなどして欲しい。

○おわりに

今回の鹿児島大会では、さまざまな表現方法の試みということで、これまでと違う視点で「漢字仮名交じりの書」を見つめなおすことができました。そして何より生徒が楽しそうに生き生きとした顔つきで書いていたのが印象に残りました。

○展示コーナー



<p>1 科目の目標</p> <p>(1) 書道Ⅰ 書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。</p> <p>(2) 書道Ⅱ 書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。</p>																
<p>2 学習内容（単位数）</p> <p>(1) 1年…「書道Ⅰ」2単位</p> <p>(2) 2年…「書道Ⅱ」文系2単位 理系1単位</p>																
<p>3 学習方法</p> <p>書道では硬筆や毛筆の特性を生かしてさまざまな表現方法を学習していきます。基本は「書く」ということです。たくさん書けば書くほど道具を上手に扱うことができ、表現の仕方も多様になり楽しくなってきます。また、見る力も自然についてきます。途中であきらめたりせず粘り強く取り組みましょう。</p> <p>(1) 表現について</p> <p>ア 漢字仮名交じりの書では、身近な詩歌や語句を素材として使い、実用的・芸術的な表現ができるようにします。</p> <p>イ 漢字・仮名の書では、古典に基づいた学習をしていきます。その学習を通して基本的な点画はもちろん、いろいろな表現ができるようにします。</p> <p>ウ 硬筆では実用書がしっかりと書けるようにボールペンの使い方などを学習します。</p> <p>(2) 鑑賞について</p> <p>ア 私たちの周りにある実用書や芸術的要素を持つ作品の役割を理解します。</p> <p>イ 漢字の成り立ちや、日本独自の仮名表現について時代背景などとあわせて理解します。</p> <p>ウ お互いの作品を鑑賞することで、他を認め自分の取り組みを見直す態度を身に付けます。</p>																
<p>4 評価の方法</p> <p>(1) 授業中の取り組み姿勢や意欲などを評価します。</p> <p>(2) 個別指導をおこない練習の過程を評価します。</p> <p>(3) 単元が終わるごとに消書作品を提出してもらいます。その作品で理解の程度を評価します。</p>																
<p>5 評価の観点と趣旨及び評価方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点と趣旨</th> <th></th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>・書のジャンルに興味・関心をもち、意欲的に取り組んでいる。</td> <td>・学習活動への姿勢や態度 ・個人ファイルの内容</td> </tr> <tr> <td>芸術的な感受や表現の工夫</td> <td>・古典の時代背景を理解し、その表現の仕方や筆遣いなどを習得している。</td> <td>・練習の過程・消書作品</td> </tr> <tr> <td>創造的な表現の技能</td> <td>・自己のイメージを表現するための技能を身につけ、それを創造的に表現している。</td> <td>・創作の過程・消書作品</td> </tr> <tr> <td>鑑賞の能力</td> <td>・日常生活における書への関心を持ちその効用を理解して鑑賞している。 ・多様な表現に対して理解を深め良さを味わう。</td> <td>・感想発表など</td> </tr> </tbody> </table>		評価の観点と趣旨		評価方法	関心・意欲・態度	・書のジャンルに興味・関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	・学習活動への姿勢や態度 ・個人ファイルの内容	芸術的な感受や表現の工夫	・古典の時代背景を理解し、その表現の仕方や筆遣いなどを習得している。	・練習の過程・消書作品	創造的な表現の技能	・自己のイメージを表現するための技能を身につけ、それを創造的に表現している。	・創作の過程・消書作品	鑑賞の能力	・日常生活における書への関心を持ちその効用を理解して鑑賞している。 ・多様な表現に対して理解を深め良さを味わう。	・感想発表など
評価の観点と趣旨		評価方法														
関心・意欲・態度	・書のジャンルに興味・関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	・学習活動への姿勢や態度 ・個人ファイルの内容														
芸術的な感受や表現の工夫	・古典の時代背景を理解し、その表現の仕方や筆遣いなどを習得している。	・練習の過程・消書作品														
創造的な表現の技能	・自己のイメージを表現するための技能を身につけ、それを創造的に表現している。	・創作の過程・消書作品														
鑑賞の能力	・日常生活における書への関心を持ちその効用を理解して鑑賞している。 ・多様な表現に対して理解を深め良さを味わう。	・感想発表など														
<p>6 その他</p> <p>(1) 不振者指導 欠点（29点以下）をとると特別指導があります。</p>																
教科書等	書道Ⅰ「書Ⅰ」 書道Ⅱ「書Ⅱ」															
副教材等	「年賀状の書き方」「硬筆練習帳」															

本時の学習計画

	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点・評価規準	資料
導入 (10分)	<p>前時の学習内容の確認をする。</p> <p>本時の目標について知る。</p>	<p>作品を鑑賞して気づいた表現方法を確認させる。</p> <p>本時の目標が表現方法の工夫を体感し、その効果をまとめて発表することであると理解させる。</p>	<p>さまざまな表現方法があることを確認させる。</p> <p>表現の工夫の効果がはっきりとわかるような作品を制作するよう促す。</p>	<p>前時の学習を確認し、本時の目標を理解できたか。①</p>	<p>前時の作品ワークシート</p>
展開 (35分)	<p>グループごとに自分たちが着目した表現の仕方や作品原稿を確認する。</p> <p>作品を書く際に工夫する点をそれぞれ再確認する。</p> <p>表現の違いがはっきり出るように意識して作品を制作する。</p> <p>グループごとに活動の結果をまとめて発表する。</p> <p>作品鑑賞をする。</p>	<p>テーマを絞りグループ活動をさせる。 A 墨色グループ B 筆グループ C 構成グループ</p> <p>テーマを認識させながら作品制作をさせる。</p> <p>前時に作った縮小版を基に全紙に作品を書かせる。</p> <p>活動の結果をまとめてさせ、その効果を発表させる。</p>	<p>前時にまとめたプリントを確認させる。</p> <p>表現の違いを理解しやすいように、題材は同じ詩文を用いる。</p> <p>グループごとに助言をする。</p> <p>実際に書いてみて、率直な感想を述べさせる。</p> <p>補足説明をする。</p>	<p>グループでの活動内容を確認できたか。②⑤⑥</p> <p>テーマを理解し、その表現ができているか。⑤</p> <p>積極的に活動できているか。③</p> <p>自分が感じたことを発表できたか。④</p> <p>他のグループの作品を鑑賞し、その効果を理解できたか。⑦</p>	<p>前時に作成した原稿</p>
まとめ (5分)	<p>本時の活動を振り返り、プリントをまとめる。</p> <p>次時の予告を聞く。</p>	<p>本時の学習を活かし、次時は自分の作品のまとめ方を学習することを知らせる。</p>	<p>創作の学習はイメージを大切にしながら試行錯誤を繰り返すことが肝要であると理解させる。</p>	<p>表現の効果を理解できたか。③</p> <p>本時の活動を理解し、次時の目標を設定できたか。③</p>	<p>ワークシート</p>

漢字仮名交じりの書

年 組 番 名前

いろいろな表現方法について学習しよう！！

1, 実用的表現と芸術的表現の作品を見比べてみて、その感想をまとめてみる。

実用的表現……

芸術的表現……

2, 創作をするときに工夫できるポイント。

3, グループにわかれて調べてみよう。そして体験しよう！！

【 】グループ

4, 実際に作品を書いてみてどうでしたか？

5, 個人の作品に取り組もう！
※どんな工夫をしてみたいか、まとめてみよう。

6, 題材・構想

7, 作品完成！！
作品を仕上げたの感想……

友達作品を鑑賞して……

創作(漢字仮名交じり書)の作品を書くために

漢字仮名交じり書は……

- 1 身近な題材を用いるので、眺みやすく親しみがもてる。
- 2 漢字と平仮名を調和させながら、いろいろな表現を試みることができる。
- 3 漢字仮名交じり文を用いるので、自分の気持ちを表現することができる。

手順

1. 自分の気持ちにあった詩文を選ぶ。(詩・短歌・俳句・歌詞・小説の一節など)

※高校生の今だからこそ心に響く言葉がきつとあるはず。いろいろな言葉を書きとめておきましょう。

2. どんなイメージで書きたいか考える。

※選んだ言葉と自分の気持ちに合った表現を考えましょう。

※いろいろな作品を見て参考にしましょう。

3. 自分がイメージする作品を書くために、どのようにすればよいか考える。

例えば……用紙の大きさは？

どんな種類の筆を使ったら効果的？

墨の色は？

構成は？

※いろいろな可能性がありますね。また、途中で気分がかわったりすることもあります。手順通り
いけないこともあり得ます。頭の中で悩むより、鉛筆や小さいサイズの作品で草稿をつくると
イメージがつかみやすくなります。

4. 実際に書いてみる。

※3で説明したように、すぐに思い通りの作品が書けるわけではありません。

いろいろと試してみましょう。

5. その他

ア 落款(落成款識)の入れ方

※漢字仮名交じりの書を書くときは、使用している題材の作者名と書作品を書いた人の名前を
入れることになっています。(例……芭蕉の句 花子■)

※落款も作品の一部です。作品を書いたらその度に入れるようにしましょう。

イ 正しい文字を書きましょう。

※芸術作品は鑑賞してくれる人がいて成り立つものです。独りよがりの作品にならないように、
正しい文字を書くように心がけましょう。鑑賞者が読めるように書くというのも大切なことです。

ウ 構成について

※縦書き・横書き・仮名の散らし書きなどいろいろ工夫してみましょう。この場合も「鑑賞者が
読める」ということが大切なので気をつけましょう。

題材プリント

年 組 番 名 前

1 出典「 」 作者名「 」

2 出典「 」 作者名「 」

3 出典「 」 作者名「 」

4 出典「 」 作者名「 」

5 出典「 」 作者名「 」

6 出典「 」 作者名「 」

第49回 全日本書写書道教育研究会
東京大会（東京学芸大学） 参加報告

金沢市立諸江町小学校

柿木 千鶴

大会要項

- 1 大会主題 「書く文化を支える書写・書道教育」
- 2 校種別テーマ
 - 小学校テーマ 「基礎・基本の習得と日常化をめざす書写の学習過程」
 - 中学校テーマ 「豊かな文字感覚をはぐくむ書写の学習過程」
 - 高等学校テーマ 「豊かな書の文化をはぐくむ書道の学習過程」
 - 大学テーマ 「書写と書道の連携を図る教員養成の在り方」
- 3 会期 平成20年11月21日（金）
- 4 会場 東京学芸大学・東京学芸大学附属小金井小学校
- 5 公開授業 東京学芸大学附属小金井小学校 1～6学年
- 6 基調講演 演題 「新指導要領の求める書写・書道教育」
講師 文部科学省初等中等教育局 主任視学官
田中 孝一先生
- 7 分科会
 - A 小学校低・中・高学年分科会「本日の授業と小学校書写教育について」
 - B 中学校・高等学校・大学合同分科会
「中学校・高等学校の連携と大学の教員養成について」

* 大会主題「書く文化を支える書写・書道教育」（研究局長 宮澤正明先生）より
〈新指導要領における書写の内容の変更点と本大会主題について〉

- ・ 現行の「言語事項」は「話す・聞く、書く、読む」の三領域に直接関わらせるという考えから消失し〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が新設された。
- ・ 小学校：「点画の種類」の理解、毛筆での「筆圧」「穂先の動きと点画のつながり」などが加わった。また「書く速さを意識して書く」が加わったことは中学校書写への関連を明確に示している。さらに、「用紙全体との関係」「目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと」など、思考力や判断力を伴った日常の書写学習を促している。

- ・ 中学校：「目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書くこと」これは読み手を意識し、書写力がコミュニケーション能力として捉えられていることの証。『解説』では「多様な文字の在り方に関心を持たせることで、文字の芸術性に関心を向ける素地を養い、高等学校芸術科書道への発展性も見通している」と明言している。
- ・ このように、書写学習は単に技能の習得というのではなく、書写に関する知識を理解し、思考力・判断力などの能力を高めるための活動を伴って行われるものである。そして、書写の活動は我が国で形成されてきた文字文化に支えられてきていることに気づく書写学習でありたいとの願いが込められている。
- ・ 学校教育における書写・書道の学習は伝統的・文字文化の基礎・基本を習得し、将来の書き文字文化の礎を形成する場といえる。このような考えのもと、本大会の主題や各校種のテーマが決定された。

*** 基調講演「新学習指導要領の求める書写・書道教育」（田中孝一先生）より**

○ 「西暦2030年（平成42年）の日本の姿」のイメージ

- ・ 現在の小・中・高校生がおよそ30代の大人になっている頃を予測すると、15歳以上の労働力、働いて税金を払う人口が約1100万人減少するといわれている。このような時代を生きることになる今の時代の子どもたちには、どんな力をつけていくべきなのかをイメージすることが大切である。

○ 学習指導要領の改訂

- ・ 今回の改訂では特に教育基本法（H18）、学校教育法（H19）の改定を踏まえたものとなっている。
- ・ 「生きる力」の育成という理念は継承されており、そのための手立ての確実な実施や教育条件の整備が求められている。社会的自立・職業的自立、義務教育に焦点が当てられている。
- ・ 「人として生まれ、家庭で育ち、学校で学んで社会人となったら一人の社会人として自立してほしい」という願い。
- ・ 改定のポイント：
 - * 各教科等を通じた言語活動の充実
 - * 伝統や文化に関する教育の充実

○ 国語科の改善の方針

- ・ 共通認識→国語力は、国語科だけでなくすべての教科等で育てる。
- ・ 言語活動の充実。

▼ 中教審答申

- ・ 「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身につけること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点」
- ・ [言語文化と国語の特質に関する事項]新設。（小中学校学習指導要領では、[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]）これは、従来の「言語事項」が名前だけ変わって位置づいたものではなく、新しい領域と捉える。
- ・ (書写)[実生活や学習場面に役立つよう・・・][文字文化に親しむよう・・・]の文

言が並んでいる。

▼ 学習指導要領（小中学校国語）

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

- 構成
- ・ 伝統的な言語文化に関する事項
 - ・ 言葉の特徴やきまりに関する事項
 - ・ 文字に関する事項
 - ・ **書写**

- ・ 高等学校芸術（書道）の改善 「中学校国語科の書写との関連を考慮し・・・」
平成 20 年 12 月に案が出る予定。

* 研究授業から

◎ 高学年（5・6年生）の授業を参観して

新学習指導要領における書写の指導内容は、以下のように書かれている。

- | |
|---|
| ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 |
| イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。 |
| ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 |

これを受けた本大会の研究授業は、第3学年のみ毛筆で他は硬筆の授業であった。高学年では「日常化」を意識してか5年生がポスターをかくという活用場面、6年生が学習のノートに生かすための横書きの練習場面であった。

【第5学年】

〈单元名〉 学んだ事を生かしてー「美文字もじもじ会」のポスターを書こう

〈单元の概要〉

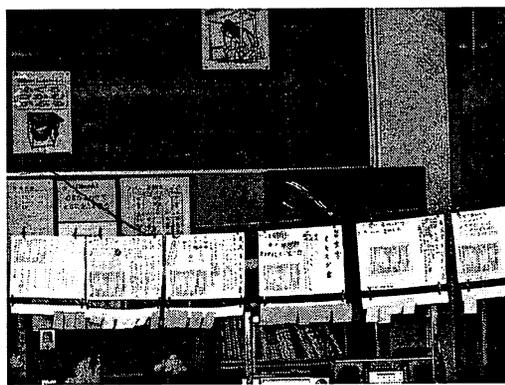
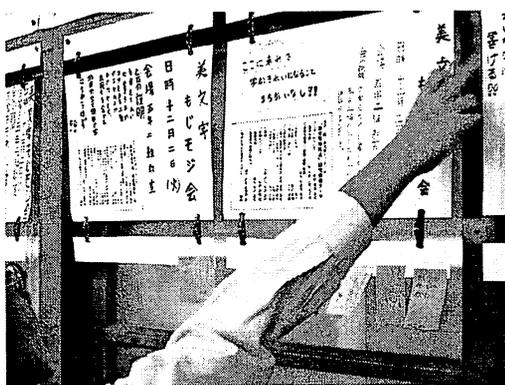
これまでの書写学習で学んだ事を発表する「美文字もじもじ会」の開催に向けた準備として、ポスターなどを作製する活動。ふさわしい筆記具を選んでその特徴を生かして書くことと用紙全体との関係に注意して文字の大きさや配列などを決めて書くことをねらって、ポスターや掲示物を作るという場面を設け、相互批評しながら作品を作成する学習となっている。日常化につながる学習場面で文字意識を高めることができるようにと指導されていた。

「美文字もじもじ会」に向けては国語や総合の時間を使いながら文字を書くときのポイントについて調べ学習をしたり、作品作りをしたりしている。それぞれの児童が文字に関するテーマを持って取り組んできた成果を発表する場が「美文字もじもじ会」であるようだ。

〈本時の授業から〉

- ・ ポスターに書く内容と気を付けることを確認する。
- ・ 試し書きを見ての相互批評（付箋使用）
- ・ 自分の課題を明らかにしてポスターを書く。

* 「美文字もじもじ会」＝児童と話し合った学習発表会の名称



【第6学年】

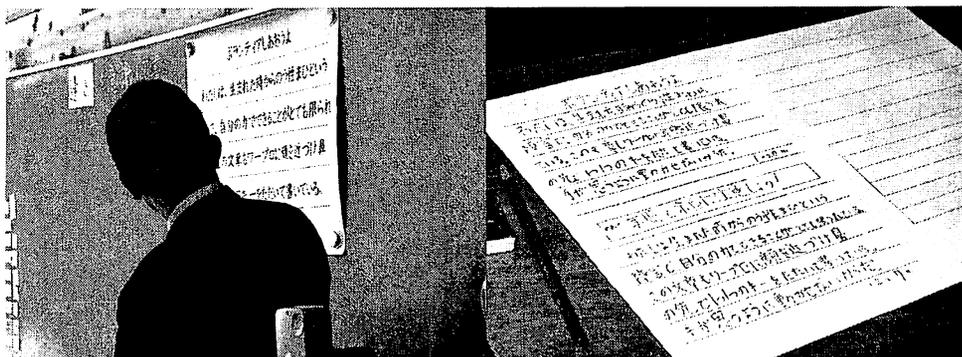
〈单元名〉 生活に生かして一速さと読みやすさを意識して横書きで文章を書こうー
 〈单元の概要〉

新学習指導要領によると、高学年3項目の中の一つに「ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと」とある。この中でも「書く速さを意識する」という文言は現行のものにはなかったため、これまでの書写学習で取り上げられることは少なかったと見られる。日常的にはノートやメモをとるときなどに適度な速さを要求されることが多い。このとき、自分の書く「速さ」を知り「読みやすく」書くこととの兼ね合いを考えることが要求される。本单元ではその「速さ」と「読みやすさ」について毛筆で学んだ「字配り」「字の大きさ」「字の組み立て」などを思い出させて硬筆につなげようとしている。

〈本時の授業から〉

- ・ 見本の活字文を見て、ワークシートに書く速さを競う。
- ・ 読みやすくするためのポイントを考える。（発表）
- ・ ポイントを考えてもう一度同じ文を書いてみる。
- ・ とりの人と相互評価をし、よくなったことを発表する。

*見本の活字文は「ボランティアしあおうよ」という100字程度の文章。



* 分科会から

- ・ 小金井小学校でも、担任が書写を担当しているとは限らず3・4年生の全クラスと5・6年生の各1クラスでは書写の非常勤講師が担当している。そんな中、昨年度の香川大会を受けて本大会でも国語部の教員が自分のクラスを公開することになった。ただ、書写の授業研究は初めてという教師がほとんどであった。
(授業者)
- ・ 新学習指導要領を意識した授業が見られた。(参加者)
- ・ 「書く速さを意識して書く」の6年生の授業に関わって
 - ▶自分のための速さか、相手に読んでもらうための速さかを意識させたい。
 - ▶1年生のていねいさと6年生のていねいさは違う。それを指導者は認識する必要がある。
 - ▶「東大合格生のノートはかならず美しい(太田あや 著)」という本が売れている。同書の中にもあるように、「時間内に情報量を確保し、見直すときの取りこぼしをできるだけ少なくするため」に必死で書く、という丁寧さもある。
(千葉大 久米先生)
- ・ 小金井小学校の研究紀要の中に「現在、小学校現場で学級担任が『書写』の授業を実施している学級や学校はどれだけ存在しているのだろうか。毛筆書写の意識から来るためか・・・(中略)・・・、書写の担任回避の現状は現実的なことかもしれない。」とあるが、ここでそれを認めてしまっているのだろうか。国語を教えるすべての学級担任の責任で書写も自信を持って授業してほしいと願っている。
(助言者)

* 終わりに

新学習指導要領の実施に向けての講演と授業が行われるということで、今回東京大会に参加させていただいた。講演では、言語事項が改定され[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]という新しい領域となったことを受けてのこれからの書写書道教育のあり方を考え、午後からはその先駆的な実践とも思えるような授業を見ることができた。

「書写指導」というと、学校現場では何か特別なもののように見られがちであるが、小中学校の中では国語科の中に存在し、なおかつどの教科・活動においても『文字を書く』ということは避けて通れない。学習場面では「書くことで思考する」といっても過言ではないだろう。これからの国語科教育では「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身につけること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てる(中教審答申より)」と言われているが、それは今までの研究の道筋となんら変わりはないと思う。

紀元前1300年、今からおおよそ3300年くらい前の殷の時代に神と王との占いや意思の疎通として亀の甲羅や動物の骨に絵文字を刻んだことが、今の漢字の起源であるという。初めは絵文字のようだった文字が次第に今の文字へと進化していくわけ

で、この文字が大陸から日本に渡り今こうして文字を書き連ねていると考ただけでも、ありがたく不思議な感じがしてくる。文字は単なる記号ではなく、太古の昔から人々の気持ちを表したり出来事を記したりするために使われてきた。人は言語によって思考するのだから、文字の持つ意味の大切さは言うまでもない。現代に生きる私たちは、3300年もの間受け継がれてきた“文字文化”を次の時代へと確実に伝えるメッセンジャーであるということを決して忘れてはいけないと思う。そしてこのことを子どもたちに教え、伝えていきたい。そうすれば、子どもたちは文字一つにも限りない“学び”を感じることであろう。学校とは“学ぶ”ことの楽しさを感じ、“学ぶ”ことで成長していくところだとの思いでこれからも研究・実践を重ねていきたい。

～参考文献～

* 第49回全日本書写書道教育研究会東京大会 研究集録

* 「東大合格生のノートは必ず美しい」 太田 あや著
文藝春秋刊

* 「神さまがくれた漢字たち」 白川 静 監修
山本 史也著
理論社刊

<構造改革特別区域> **書道教育特区 伊東市**

伊東市立南小学校の「書道科」の授業を参観して

金沢市立中村町小学校 中川 晃成

*はじめに

もう20年以上も前の話になる。当時の文部省に1年生から「書道科」を新設するよ
うに「陳情書」をなにかで見たことがある。当時でも、一般の方々に理解していただくにはかなりハードルが高い考えであった覚えがある。時代が変わり、子どもたちの書写力はさらに落ちてい
ると言われる中で、小学校1年から書道に取り組みさせる「書道教育特区 伊東市」が話題になった。「百聞は一見にしかず」、ぜひ参観したいと思っていたところ、10月9日に、伊東市立南小学校にて公開説明会があることをうかがい、参加させていただいた。

*伊東市の書道教育特区ができるまで

平成17(2005)年 5月 文部科学省の地域子ども教室推進事業の助成を受け、「子ども書道教室」を学校法人日本書道藝術専門学校において開講。
10月 特区申請提出。11月22日、内閣総理大臣の認定。
平成18(2006)年 4月 伊東市立南小学校を3年間、モデル校として実施する。
平成19(2007)年 4月 伊東市立東小学校2年間、モデル校として実施する。
平成20(2008)年 7月 「活用する規制緩和の全国化」により、7月9日認定取消。
平成21(2009)年 4月 市内の全小学校を対象に実施。

*平成19年3月29日、静岡県駿東郡長泉町が「書道教育特区」に認定される。

*平成19年3月31日、沖縄県那覇市が「書道教育特区」に認定される。

注 (いずれも伊東市同様「活用する規制緩和の全国化」により、7月9日認定取消)

その背景として

- ◇ 歴史的に伝統芸能の研究とそれを享受する生活を継承する市民の、子どもたちに正しく、美しい書表現を学んで欲しいとの高い意識がある。
- ◆ 児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などは教育課題として取り上げられており、それらを解決していくことが伊東市の教育に求められている。
- ◆ 書写機器(ワープロ・パソコン等)の発達と効率を求める社会的要求により、この伝統の書道は忘れられようとしている。このことは我が国にとっても、また世界的視点から見ても、大きな人類の文化的損失であるととらえている。
- ◇ 伊東市内南小学校区に専門学校(日本書道藝術専門学校)の存在。

*書道教育特区の内容

ア 小学校第1, 2学年に「書道科」の時間を新設する。

イ 第1学年においては年間34時間、第2学年においては年間35時間を、生活科の時間から「書道科」の時間に充てる。

■「書道科」の目標

- ① 毛筆による書道を通して、日本の伝統文化に対する関心を深め、国際理解に資する基礎を培う。
- ② 毛筆による書道を通して、技能を高めるとともに書き言葉習得の基礎を培い、自分を表現する力を養う。
- ③ 毛筆による書道を通して、美意識や自省心の涵養など感性を培う。

■ 国語科書写との違い

書に関する学習は、国語科に「書写」としてすでに位置づけられている。国語科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」とあり、国語科書写はこの目標に即して、「姿勢、用具、筆順に関すること、字形に関すること、点画の書き方、字形の整え方、文字の形や大きさ、字配り」などから構成されている。

「書道科」も書に関する学習である以上、そのような面を大事にしているのはもちろんであり、国語科書写と一部重なる部分があるのは否めないが、本教科の目標は、書を通じた教育の持つ本質的な意味として、日本の伝統文化の尊重とともに、美意識や自省心の涵養など感性を育てるところに置かれている点において、国語科とは一線を画するものである。このため、国語科の書写とは別に「書道科」創設の意味があるものと考えられる。

■「書道科」における各学年の目標・内容

【目標】

① 第1学年

- ア 毛筆による書道を通して、日本に伝わる情操や文化のよさに関心を持つ。
- イ 毛筆による書道に親しみ、基礎的技能の初歩を身に付けることができる。
- ウ 美しさを意識したり自省したりしながら学習し、自分や友達のよさに気付く。

② 第2学年

- ア 毛筆による書道を通して、日本に伝わる情操や文化のよさについて関心を深める。
- イ 毛筆による書道に慣れ、基礎的技能を高めることができる。
- ウ 美しさを意識したり自省したりしながら学習し、自分や友達や出会った人々（作品）のよさに気付く。

【内容】

第1学年、第2学年共通の内容として、姿勢・挨拶、字の構造、形のとり方、墨の含ませ方などは、一貫して指導していくが、次のような内容については、発達段階に即し、指導をしていく。

① 第1学年

- ・用具の名称、用途、片付けの仕方などについて学ぶ
- ・漢字一から十までを書く
- ・片仮名を書く
- ・起筆、終筆などの技法について学ぶ

- ・筆の運び方と呼吸について学ぶ
 - ・自分の作品の反省や友達作品の鑑賞
- ② 第2学年
- ・「永」字八法について学ぶ
 - ・平仮名を書く
 - ・第1, 2学年で学ぶ漢字を書く
 - ・名作の鑑賞など（書にかかわりのある逸話、書初め展、展覧会など）

***授業を参観して（2年生「手」 たてかくに丸みをもたせ、はねに気をつけて書こう）**

伊東市立南小学校 各学年4クラス 800名規模の学校

- ・週2日の2～5限を「書写教室」（固定された教室）にて「子ども書道教室」の指導者および書道師範免許状の有資格者を指導員として迎えて、担任とTT授業。

◇授業の流れ

- (担任) : めあての確認「たてかくに丸みをもたせ、はねに気をつけて書こう」
- (指導員) : 目をつぶってイメージしよう。
- (指導員) : (水書板に範書、児童はあわせて空書き)
 (低学年らしくリズムに乗って 1、2、3、4と24まで)
- (担任) : どんな形のイメージ?
- (児童) : ダイヤモンド どんぐり ロケットの羽のない部分・・・
- (担任) : (基準の確認)
- (指導員) : イメージを大切に。 手の字はどんな形からできてるの? (文字の成り立ち)
 ～児童は10分に3枚ほど書く 担任・指導員は朱筆で全員に丸付け～
- (児童) : (4枚目をかく 名前もいれる)
 ～机の上には1枚の「手」 隣の人と相互批評～
- (担任) : (ペア4組を選び 相互批評を発表させる)
- (指導員) : (評価)
- (児童) : (まとめがき)
- (担任) : 2人選んで、ふりかえり
- (指導員) : (評価) ここまでで40分。
 ～あとかたづけ～
- ・ 筆はバケツに。 墨はそのまま。 机の中に文鎮下敷き。
 - ・ 反故紙や紙バサミ（新聞紙）は自分のバックに。

- ・ 「これが2年生？」と思わせる落ち着きと集中力が見られた。
- ・ 子どもたちの「身体ごと入った」文字。堂々と力強く、伸びやかな線で書いていた。
- ・ 準備、あとかたづけの工夫がされており、1・2年生でも時間がかからない。
- ・ T1（担任）T2（指導員）のみごとな「呼吸」で役割分担ができていた。
- ・ 「見えない線」（筆脈）への意識を高める工夫がされていた。
- ・ 子どもたちに自信を与える指導が随所で見られた。

*授業後の説明会にて

教育委員：3年前、今どうして書道？何で英語じゃないの？が正直な感想。学びを生き方につなげたい、心を育てる「〇道」を見直す時期ではないかという前教育長のことばに心を動かされた。

最初の授業「一」を見てから、大きな変化が今日見られた。

授業の中で拍手が生まれる場面はそう無いであろうが、書道の時間にはいつも生まれているという。自分の仲間の変化に感動している姿が素晴らしい。

専門学校：習い事は4才の4月からという言いつたえ。なかなかそうできない現実の中、1, 2年生の書道は子どもの素直さから集中してついてくる姿が見られる。私たちが子どもから習うことが多い。

学校：子ども同士のかかわり合いを大切に指導してきた。成果は大きく上がっている。課題として、ねらいがはっきりしなかったことがあげられる。それは担任と指導員の打ち合せの時間がとれず、連携のとりにくさにあった。ねらいを確認すること、カリキュラムをしっかり作ることに時間をかけた結果、今日の姿となった。正直、教員間の温度差はまだまだある。しかし、子どもの姿によって理解は広まっている。3年生の「書写」の授業は格段に変わった。コンクールでもとてもよい成績が上がっている。

参観者：無理なくすすめられている。全員の子に指導が届くTTの授業は素晴らしい。中学校では概念からの出発になっていることを改めて痛感。お互いが評価する場面では、論点をはっきりしていた。感動を共有できるのが素晴らしい。

*終わりに

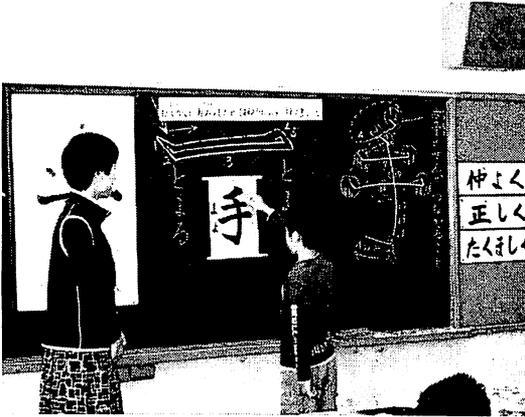
20年7月に「教育特区」が活用する規制緩和の全国化により、認定の取消があったということは、全国どこでも行うことができるということでもある。静岡県長泉町は1・2年生の12時間だけを生活科から「書道科」に、那覇市のように1年生15時間は国語科書写から6時間、生活科から9時間、2年生20時間は書写から15時間、生活科から5時間など持ち出すとしている。これらを参考に知恵を出すことにより、特に毛筆書写入門期（3年）の授業の課題の解決に向けて、前進することが出来るように思う。

伊東市の場合、専門学校や同地区にあるという特色がおおいに生かされているが、地域の人材を生かして、どこの地域でもゲストティーチャーなどで実現することができる。「書道科」の設置に限らず、リズムに乗って書くこと、「書写教室」の設置、相互評価、入門期の準備あとしまつの工夫など。今すぐにも取り入れることが可能と思う授業の様々な工夫があった。

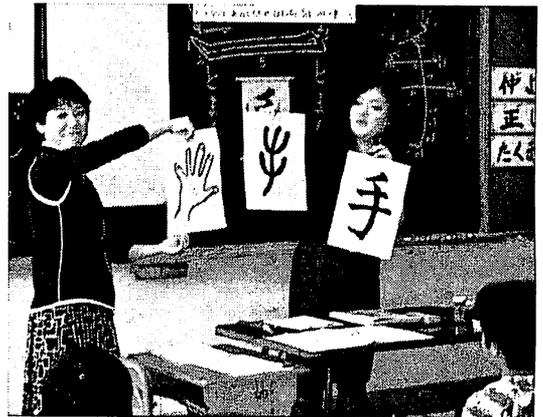
何よりもすてきな子どもたちの姿、できあがった作品を見て、この試みに対する答えがあったように思う。

注「活用する規制緩和の全国化」

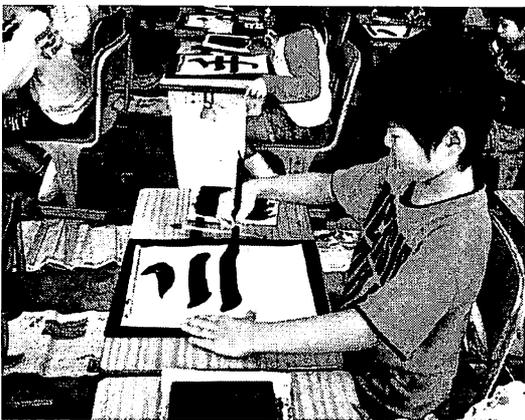
特区において講じられた規制の特例措置は、一定の期間が経過したのちに評価が行われ、特段の問題が生じないと評価されたものについては、全国で実施できるようになる。なお、認定特区計画で位置づけられている特例措置のすべてが全国展開された場合、その特区計画は認定が取り消されるが、それは特例措置が全国で実施できるようになったからであり、特区のメリットは継続されることになる。



筆の動きを「24」に細分化して数えながらリズムに乗って書く工夫は低学年に効果的。



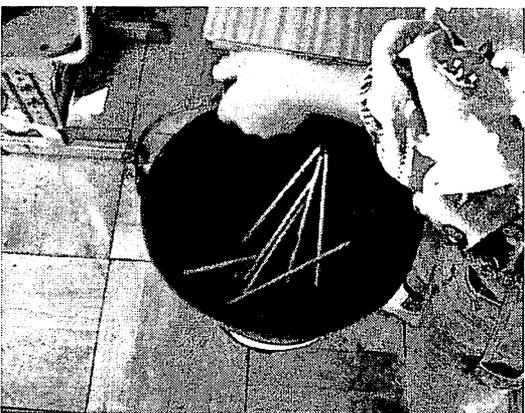
篆書を用いて文字の成り立ちの説明をして興味関心を高める工夫。



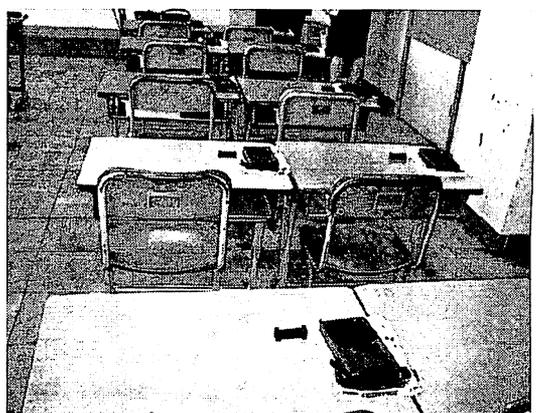
力強い筆運び。ほとんどの児童がこのような「身体」がはいった文字を書いていた。



「書道教室」後ろの掲示版の作品。伸びやかに書いた作品が印象に残った。



筆（個人所有）は当番の児童が集めて、指導員の先生が筆を洗って保管。



硯は「書道教室」に常時設置。1・2年生がこの教室を書道科の授業で利用。

研究協議会 I

『書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～』

- ① 第33回全日本高等学校書道教育研究会（鹿児島大会）報告
～「漢字仮名交じりの書 さまざまな表現方法の工夫」～
発表者 野田 明子（石川県立内灘高等学校）

【質疑応答】

- Q 大会テーマには『個を生かし、感動する心を育てる』とあるが、目的は達成されていたか。
- A 参観したのは楽しむことをまず重視した授業だった。次につながる授業だと感じた。
- Q 小学校でも出来る授業のように感じた。この授業に対する感想を伺いたい。
- A 石川県でも出来る事はないかと思って参加した。線質よりも筆などの道具の工夫に重点が置かれていた。参加された先生からは、もう少し深い内容を期待していたという意見も多かった。

- ② 第49回全日本書写書道教育研究会参加報告
～書く文化を支える書写・書道教育～
発表者 柿木 千鶴（金沢市立諸江町小学校）

新学習指導要領実施に向けて学ぶ機会となった。時間の関係で質疑応答の時間はとることが出来なかったが、石川県の研究レベルは全国にも通用するレベルであるという意見が参加者から聞かれた。

- ③ 書道教育特区―（静岡県伊東市）―視察報告
～小学校1・2年の生活科を一部「書道科」に～
発表者 中川 晃成（金沢市立中村町小学校）

小学1，2年生から毛筆指導を行うという点についての是非はいろいろな意見があるが、児童も中学年と思われるほどの落ち着きもあり、決して無理なことではなく、むしろとても効果的な事だと感じた。石川県でもいろいろな形で行っていきける可能性を感じ、取り組んでいきたいとまとめられた。これからの方向性についてとても刺激になる発表だった。

研究協議会Ⅱ 報告

実践発表レポート

研究協議会Ⅱのまとめ

自ら考え発見する子をめざして ～コンテンツを使った授業の工夫～

金沢市立諸江町小学校 西谷充子

1. はじめに

書写の授業というのは、自分の小学校生活を思い返してみると、「まね」をすることに必死であった気がする。手本の字をそっくり「まね」をする。また、字の上手な先生の姿勢や筆の運び方、その一つ一つを「まね」することによって自分も字が上手になるのだと考え学習していた。また、その「まね」をしていく過程で手本だけでは分からなかったコツを発見し、次の画はどこから始まるかなど考えながら文字を書くことができたのである。

その「考え発見する」ことで、毛筆は上達するとすれば、それを教師側が支援することで児童の文字を書く技術はよりあがるのではないかと考えた。そこで、児童自らに考えさせ発見させる授業に取り組むことにした。

しかし、そこには指導者の技術の高さが求められる。私自身はとうとうまく指導する自信がなく、書写の授業が憂鬱であった。それに比例して児童の技術の上達もあまり見られず、自ら考え発見する姿もなかった。

そんな時に出会ったのがデジタルコンテンツである。これを書写(毛筆)の全授業で使用することによって、指導者の苦手意識を解消することができ、同時に児童が自ら発見する機会を与えることができると考えた。

また、コンテンツを見て発見した後で使用する練習用紙を、児童の思考の流れに沿うように工夫することによって、自ら考えながら文字を書くことができるのではないかと考えた。

コンテンツの使用と練習用紙を工夫することによって、「まね」をするだけでなく思考する時間を与え、それによって自ら考え発見する子を育てていきたい。

2. 児童の実態と書写の授業の様子

本校の6年4組は男子16名女子19名の35人学級である。ほぼ毎日漢字の書き取りの宿題を出しているが、「止め」「ハネ」「はらい」がしっかりできている子は全員ではない。スキルなどの手本を見て書いているのだが、細部までには気づかないのか、担任に赤を入れられて初めて気づく子が大半いる。

また、6年生という学年柄、ノートに文字を書く場面が多々あり、しかも短時間で多くの文字を書くことが要求される。そのせいで、文字を一画一画丁寧に書く機会が少なくなっている。

実際の毛筆書写の授業では、毎時間コンテンツを利用している。一画一画を確認し、一斉に空書きも行ないスクリーンに集中する場面が多々見られる。また、始筆は10時半ということや、右上がりということは4月当初から指導しているので、その定着は見られる。意欲に関しては、文字をうまく書きたいと思う児童が多く、時間のある限り書こうとしていたり、上手な友達にコツを尋ねたりしている様子を見かける。

このように、一画一画に心を込めて書くことができる時間は書写の時間しかないと言っても過言ではない。その文字を書くことだけに集中できる書写の時間に、児童に気づかせ、考え発見する機会を与えることによって、文字のバランスや一画一画を意識して書く習慣を少しでも身に付けさせたい。また、静かな時間に自分自身と向き合うことで、心を落ち

着かせ集中力を身に付けさせたい。

3. 6年「情熱」での実践

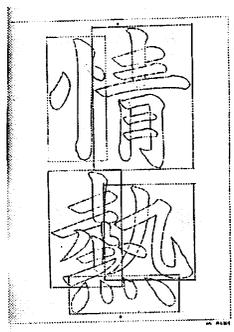
単元名 文字の組み立て方を確かめよう。

目標 文字の組み立て方を理解して書くことができる。

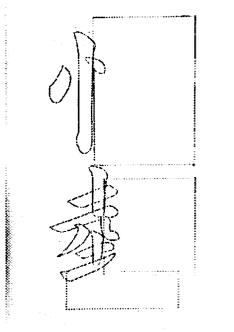
学習計画(総時数 2 時間)

	ねらい	学習活動と児童の主な思考の流れ	・支援 ◎評価
第一次 文字の組み立て方を考えよう	・文字の組み立て方の特徴を理解して書く。	1. 「情熱」の試書をし、自己批評する。 2. 課題をつかむ。 <文字の組み立て方に気をつけて書こう> 3. 課題について理解を深める。 コンテンツ 点画ピースを使用 ・四角が重なっているよ。 3. 練習用紙を使って練習する。 練習用紙①・②使用 4. まとめ書きをする。 5. ふりかえりをする。 文字の部分はバラバラに書くのではなく、お互いに譲り合ったりくい込み合ったりして書くとバランスが良くなるね。	・部分の組み立てに気づかせるために、コンテンツの点画ピースを使用する。 ・一部分だけが書かれている練習用紙を用意し、組み立てが意識できるようにする。 ◎文字の組み立て方の特徴を理解して書くことができる。 (まとめ書き)
第二次 これまで学習を生かして書こう	・組み立て方の特徴を意識して文字を整えて書く。	1. 前時のふりかえりをする。 <学習したことを生かし「情熱」を書こう> 2. 良くしたい箇所を確認する。 ・「れんが」の部分を上手に書きたい。 ・全体的なバランスを良くしたい。 コンテンツ 動画使用 部分の動画使用 ・空書きをしよう。 3. 練習用紙を使って練習する。 練習用紙①・②・③使用 4. 「情熱」のまとめ書きをする。 5. ふりかえりをし、上達したところを交流する。 学習したことを生かして文字が書けたよ。 1 枚目よりも、文字のバランスが良くなったよ。友達の文字も上達しているね。	・細部の筆の運び方を理解させるために、コンテンツの動画を利用する。 ・書くスピードや全体のバランス、始筆の位置をイメージさせるためにコンテンツの動画を利用する。 ・様々な練習用紙を用意することで、自分にあった練習をさせる。 ◎組み立て方の特徴を意識して文字を整えて書くことができる。(まとめ書き)

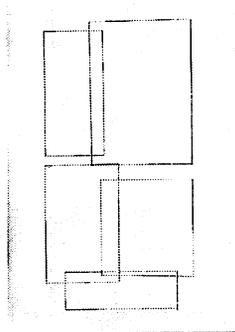
練習用紙①



練習用紙②



練習用紙③



4. 実際の授業の様子

(1) 第一次について

自己批正では手本を見ないで書いた字を、手本を見て赤チョークで直すということを行なった。その際、自分の字の手本との違いを発見し、手本の字に近づくようにどうしたらよいか考える場面を持たせることができた。

その後の交流では、『丸』のカーブの部分とハネが難しい。」などの部分の筆遣いの悩みなどが子ども達から出てきたが、「熱の『丸』の部分に離れすぎた。」や「れっかの部分が下がりすぎた。」などの、3つの部分のバランスがおかしいという意見がたくさんでた。

そこで、課題を<文字の組み立てに気をつけて書こう>とし、課題について理解を深めるために、ここでコンテンツの点画ピースを利用した。教師が操作し、児童が手本を見ながら教師に指示を出す形式をとった。「もっと右!」「ちょっとだけ上!」「ストップ!」など様々な声が飛び交い、『へん』や『つくり』の位置を決めることができた。その後、「何か気づくことある?」と尋ねると、「囲んでいる四角が重なっている」という意見がたくさん出て、文字同士がくい込んでいくことの理解を深めることができた。

理解を深めた後で練習用紙を使っでの練習を行なった。児童に配布したのは2種類の練習用紙である。「自分が上達しそうな練習用紙を選んで練習しなさい。」と指示をし時間をとった。この場面でも自分の力を考え決断する時間をとることができた。

練習した後、課題を再確認しまとめ書きを行なった。集中力が続いているようで真剣に書くことができた。

ふりかえりでは、最初一枚とまとめ書きの字を比べさせ、自分の成長度合いを考えさせた。自分の字が上達したと思う子に手をあげさせたが、全員の手が上がった。また、課題を意識して書けたかという問いにも、ほぼ全員が挙手をしていった。

部分同士がくいこんでいるという課題は子どもに持たせることができたが、部分同士が譲り合っているという点には気づかせることができなかつたので、次時の導入で確認することにした。

(2) 第二次について

前時の振りかえりでは案の定「四角が重なっていた」という意見だけがでて、「譲り合っている」という意見が出なかつたので、そのことを気づかせるために、四角は重なっているが部分同士が譲り合っていない『熱』という文字を黒板に書き、児童に提示した。すると、「部分が縦長になっている」「右半分が狭くなっている」という意見が出て、譲り合っ

ていることに気づかせることができた。

その後、前時にでていた『丸』と「れっか」の筆遣いをコンテンツの動画を見て確認した。その他にコンテンツで見たい部分を聞くと、「全体を書いている様子が見たい」や「書くスピードが見たい」などの意見が出たので、全体の動画も提示し確認した。その際、次の画がどこから始まるか予想させながら行なった。そして、空書きを二度行ない全体のバランスと書くスピードを感覚でつかませた。

今回の練習用紙は3種類用意した。前時と同じように用紙を選ばせ、自分の今の力を考えながら練習をすることができた。

課題を確認した後まとめ書きを行なった。

振りかえりでは、代表の児童の作品を最初の1枚・前時のまとめ書き・本時のまとめ書きの3枚を並べ、上達した部分を交流しあった。

(3) 自ら考え発見する場面について

主に以下の場面で「自ら考え発見する」機会を得ていると考える。

(ア) 自己批正時

自分の書いた文字と手本の文字を比べ、自分の文字の足りない点を考える。

(イ) 自己批正後の交流時

自分では気づけなかった点を、友達の意見により発見する。

(ウ) コンテンツの点画ピース使用时

「へん」や「つくり」などの部分の位置を手本を見ながら考える。

部分同士がくい込んでいることを発見する。

(エ) コンテンツの部分の動画時

色分けしてあることによって、筆の先と根元の方向を発見する。

(オ) コンテンツ全体の動画時

次の画がどこから始まるか、空書きをしながら考える。

書くスピードやリズムを発見する。

4. 成果

今回の授業では、個人差はあるもののほぼ全員が成果を出すことができた。振りかえりでは課題を意識して書けたという児童は35人中34人であった。

『「情熱」の文字の書き方で発見したこと』という問いには以下の答えが返ってきた。

- ・ 「れっか」の点の向きと長さ
- ・ 「丸」のはねはゆっくりと書く
- ・ 「れっか」は少し小さめ
- ・ 部分ごとの四角が重なって1つの文字になっていること
- ・ 「へん」と「つくり」のバランスが大事
- ・ 右上がりになるとより字が整う
- ・ 「へん」と「つくり」の幅を意識して書くとバランス良く書ける。

このことより、児童は自己批正や話し合い、コンテンツを見ることによって自ら発見し、考えながら文字を書くことができたのではないかと考える。

『コンテンツの画像を使っての学習はどうですか?』との問いには 35 人中 34 人が良いという答えが返ってきた。良いと答えた理由は以下のようなものである。

- ・ パズル(点画ピース)でバランスなども意識できる。
- ・ 筆の向きや筆の運び方がはっきり分かる。
- ・ 始筆の位置が分かりやすい。
- ・ 動画と一緒に空書きをしたら、イメージが沸きやすい。
- ・ 中心線などが見やすい。
- ・ 黒板に書くよりも本物に近い
- ・ スクリーンが大きくて見やすい。
- ・ 字を書いているところが見える。(先生に隠れて見えないことがない)
- ・ 文字を書くスピードが分かった。
- ・ 部分ごとの動画もあるので分かりやすい。

以下の写真は左から「試し書き」・「一次のまとめ書き」・「二次のまとめ書き」である。



今回の授業を通して、書写の時間はただ「まね」をするだけではなく、考え発見しながら文字を書くことが大切だと改めて実感することができた。自己批評し、自分の字を自分自身で見つめ直す機会というのは、文字の形を意識することにはとても有効な手段であると感じた。また、コンテンツの点画ピースを使い、部分同士の重なりが発見できたことも、

課題を意識することには有効であった。

そして、児童自身が発見したことを活かし練習用紙を教師側が準備することも大切だと感じた。児童の意識の流れに沿って学習を進めるには必要不可欠なことである。自分で考え発見したことは教えこまれるよりも身に付けることができるのではないかということが今回の授業で感じたことだ。

7. 今後の課題

今回の授業ではそれぞれの児童が成果を出すことができたが、自己批評をする場面で手本をじっくり見て直すということを、さらに力を入れていくべきだと感じた。その際、始筆や終筆の位置、傾きや、バランスなど、具体的に視点を指示することによって、児童はより新しい発見を得ることができ、自分の文字と向き合うことができるのではないかと考える。

また、「試書」と「一次のまとめ書き」の間には上達が見られるが、二次に上達が見られない児童が数名いる。そこで、二次での指導の仕方に工夫が必要であると考えている。コンテンツの使用法や、練習用紙の形態、教師の支援において今後試行錯誤していきたい。そして、書写があまり好きではない子に、意欲を持たせるために、自分の上達を実感させることが大切だと思う。そこで、試書とまとめ書きを比べて違いを実感させる振り返りの時間も大切にしていきたい。

最終的には、毛筆の時間で得たことを、硬筆でも生かせるような活用の能力を身につけていきたい。

研究協議会Ⅱ

「授業実践に向けての具体的手立てを探る～授業実践から～」記録

白山市立蝶屋小学校 黒川 なつき

《質疑応答》 (・=質問, →=答え, ○意見)

- ・ 練習用紙の紙質はどのようなものか？
 - 半紙ではなく、普通紙を使用。大きさはB4である。
- ・ 手本の持つ特徴を大切にしている。だが、「自ら考える」ということをテーマとしているのなら、手本がそう書かざるをえない理由を考えるべきではなかったか。
 - バランス悪くなるからという意味での声かけはした。第2次で少し行ったが、第一次でやればよかった。
 - (他の参加者) 資料内の児童の作品「情(へん)とつくりがかなり離れているもの。」を取りあげて、離れていると読みにくいこと、(縦書きなら大丈夫かもしれないが)横書きだと読み間違いがあるかもしれないということを児童に考えさせるなどはどうか。
 - なぜ手本を真似るのか、この課題(文字)以外にも応用できるのでよいと思った。
- ・ 「ゆずり合う・くいこみ合う」は理解しているようだが、実感を伴っているのか。
 - もうすこし追い込みながら、実感させるべきだった。
- 小学校段階での指導事項がある。考えさせながら、技術を磨き、鑑賞力をつけることが大切である。
 - 執字法に言及した報告が聞きたかった。
 - また、字形の作り方には規則性がある。例えば、へんはつくりにつくるところは揃えること、つくりはへんにくっつけるのではなく、幅をせばめること等である。これらを教えることで、他にも活かしていける力がつくのではないか。
 - さらに、上達法の一つとして、手本や自分の作品を逆さまからから見るとよい。また、書いた文字をパーツ毎にちぎって再構成することも有効である。
 - 概して、指導者が未熟でもっと勉強していかなくてはいけないと思う。
- 年末に発表される「今年の漢字」など、人々の漢字への意識は高い。これからもがんばっていききたいものである。
- デジタルコンテンツの点画ピースがとっても使えるし、便利だと思った。
- 初めの子どものたちの字が、すこし拙いように感じた。3年、4年での積み立てがあまりなされていないのかなあと思われた。

《助言者より》

- デジタルコンテンツをよく活用していたのがよい。ただコンテンツを見せるのではなく、子どもと関わり合いながら活用している。書写は技能だけではなく、考えていく力も必要。その意味で、この流れは評価できるが、もっと子どもの意識を大切にしたいコンテンツの活用方法を考えてほしい。
- 話し合い活動の充実しているのがよい。相互評価・自己評価などを取り入れていた。この活動を曖昧にせず、話し合い活動を通して文字に対する意識・感覚を高めてほしい。
- 授業展開の方法として、自分の作品を三枚並べるなど、自分の伸びを実感できるようになっているのがよい。苦手な子どもにとって意欲が育つ。
- 硬筆との関連を意識して指導しているのがよい。
- （課題として）デジタルコンテンツの使い方の工夫が挙げられる。発見したらすぐ見せたらよいのか、どうしたらよいのか児童が解決策を考えた後にコンテンツを与えるのか、部分的に使用するのか、伸び悩んでいる子どもにだけみせるのか等、様々な活用方法が考えられる。
- （今後の展望として）担任が書写を持てるように、裾野を広げていけるとよい。

大会に参加して

「書道教育特区～静岡県伊東市～視察報告」を聴いて

石川県立金沢中央高等学校 教諭：田中 学

今大会での研究協議会 I では「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」というテーマで、鹿児島県で開催された第 33 回全日本高等学校書道教育研究大会と東京都での第 49 回全日本書写書道教育研究大会などの報告がなされました。そのなかでも、私が特に興味深い内容だったのが「書道教育特区～静岡県伊東市～視察報告」でした。

小学校では高学年において「書写の時間」が設けられているにも関わらず、どうしても低学年から毛筆での書字活動行なうのだろうか。

その背景として「児童の表現力の向上」「心の教育の充実」「専門学校（日本書道芸術専門学校）の存在」等があるという。

なるほど。個人的に、近年の児童の表現活動といえ（実際のところは違うのかもかもしれないが）「ダンス」ばかりがもてはやされ、運動能力だけが先行してしまい、心の成長を伴っていないのではないかと思っていたのである。

実際の指導内容は「書写」に近いと感じたが、それでも我々人間が本来持っている美意識や自省心の涵養を育てることにつながると思われる。

専門学校との連携のもと T T で授業が行なわれているのは確かに恵まれている（児童は後片付けをせず、書字活動のみに専念するというのは「書道嫌い」予備軍予防につながるだろう）。

しかし、各地域で工夫を凝らして、こうした取り組みを（一過性のものではなく）今後とも続けてもらいたい。そう強く感じたのであった。

第19回石川県書写書道研究大会に参加して

—— 書写指導，やっぱり基礎・基本 ——

小松市立木場小学校
不破恵美子

この度は、研究大会に参加させていただきありがとうございました。本大会の「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」のテーマに惹かれ、参加することにしました。

全国大会（鹿児島・東京）参加報告・視察報告・授業実践報告からたくさんのごことを学ぶことができました。中でも一番印象的だったのは、中川晃成先生の『書道教育特区の伊東市立南小学校書道科の授業』報告です。「書道特区」として認定された事業が推進され、書道が「書道科」として位置づけられている「伊東市」の取り組みの報告です。「1・2年生にどんな毛筆指導が展開されるのだろうか。」と興味津々でした。

授業（2年生「手」 たてかくに丸みをもたせ、はねに気をつけて書こう）の様子をビデオを通して紹介してもらい、2年生の子ども達が集中して毛筆に取り組む姿を見て驚きました。「身体ごと字を書く」「身体を入れて字を書く」「見えない線への意識」が子ども達の様子から伝わってきました。子ども達は、本当に力強い「手」を書き上げていました。また、「3年生の『書写』の授業が格段に変わった。」ということが学校の成果としてレジメに書かれており、子ども達の書に対する意識の高さ・書への意欲が、系統的な学習の成果として確実に全校の子ども達に位置付いていると思いました。ただ、日頃「国語科書写」に関わっている者として、次の2点が気になりました。

- ・ 生活科の時間を「書道科」に充てることで、生活科の時数が34時間・35時間減ることになる。生活科で示されている学年の内容が充分指導されるのか。
- ・ 1年生・2年生は生活力が未熟であるが、3年生からではだめなのか。担任1人が40人近い子ども達を相手に実現可能か。毛筆練習と合わせて、各教室での用意・片付けも子ども達一人一人にやらせるべきだと思うがその点はどうか。

そして研究会の最後、氷田先生が話された内容は、書写指導に関わる者としてとても厳しいものでしたが、すっきりと心に残りました。毛筆だけでなく、硬筆を含めた書写指導の基礎・基本に立ち戻らせていただいたと思います。先生が示されたことです。

- ・ 今の毛筆指導は、無駄が多いのではないか。
- ・ 筆の持ち方・筆の角度・指の使い方・筆順・字体の特徴の指導を段階（系統的に）を追って教える・考えさせることが大事である。
- ・ 書写の時間で「習った字を他の字に生かす」指導が必要である。
- ・ もっともっと指導者の力量を高める必要がある。
- ・ 手本と自分の作品を、横から・斜めから・逆さまから見て考える子を育てる。

本研究大会に参加し、書写・書道教育の不易と流行を学んだように思います。

意欲的に学習に取り組み、書を愛する子が増えることを願いながら、これからも基礎・基本を大切にしたい書写の授業実践に励んでいきたいと思っています。

連 盟 の あ ゆ み

連 盟 役 員 一 覧

連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させる。(昭和62年) (1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ〔金沢大学教育学部書道演習室〕(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 **石川県書写書道教育連盟設立総会**〔ホテル六華苑〕
(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長] 三宅正敏 [金沢市小学校教育研究会書写部長] 河本隆成<金沢市立馬場小教頭> [金沢市中学校教育研究会習字部長] 大野重幸<金沢市立金石中校長> [石川県高等学校教育研究会書道部会長] 佐藤政俊<金沢女子高校長> [石川書写の会会長] 山田泰正<鹿島町立越路小校長> [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 法水光雄<金沢大学助教授>	
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	兼 任
副理事長	: 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長> : 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長> : 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭> : 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>	
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長> 木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課: [小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子 [高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫	
* 金沢地区	: 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長> : 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭> : 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭> : 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭> : 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>	
* 加賀地区	: 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭> : 中学校部: 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭> : 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師> : 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>	
* 能登地区	: 小学校部: 西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭> : 高校部: 嬉喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>	
事務局	: 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭> : 副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭> : 庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭> : 会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭> : 研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師> : 会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭> 大坂育代<湯野小教諭> : 研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭> : 調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭> 西川真理<野々市小教諭>	

11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
 ～17・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》
12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]
12. 10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行
1990. 5. 18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]
- (平成 2年) 10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行
- 11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会**
[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
 第3回理事会
1991. 2. 23 第4回理事会
 (平成 3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行
6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行
- 11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会**
[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]
 第6回理事会
1992. 3. 26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]
- (平成 4年) 3. 30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行
5. 28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]
10. 20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行
- 11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]**
 第9回理事会
1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行
 (平成 5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]
- 11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会**
[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
 第11回理事会
1994. 3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行
 (平成 6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]
- 第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会
- 10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]**
 第13回理事会
12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行
1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行
- (平成 7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]
9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行
- 10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会[鹿島町立越路小学校・ラビア鹿島]**
 第15回理事会
1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行
 (平成 8年) 4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行
- 11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]**
 第18回理事会
1997. 3. 『石川県書写書道教育』(第14号) 発行
 (平成 9年) 6. 25 第19回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第15号) 発行

11.21 第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]
第20回理事会

1998. 3. 『石川県書写書道教育』(第16号) 発行
(平成10年) 7. 18 第21回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第17号) 発行

11. 2 第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]
第22回理事会

1999. 3. 『石川県書写書道教育』(第18号) 発行
(平成11年) 6. 16 第23回理事会 [六華苑]
9. 『石川県書写書道教育』(第19号) 発行

10.19 第10回石川県書写書道教育研究大会[七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]
第24回理事会

2000. 3. 『石川県書写書道教育』(第20号) 発行
(平成12年) 6. 9 第25回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第21号) 発行

12.7 第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]
第26回理事会

2001. 3. 『石川県書写書道教育』(第22号) 発行
(平成13年) 6. 9 第27回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第23号) 発行

12.6 第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]
第28回理事会

2002. 3. 『石川県書写書道教育』(第24号) 発行
(平成14年) 8. 8 第29回理事会 [六華苑]
10. 23 『石川県書写書道教育』(第25号) 発行

12.5 第13回石川県書写書道教育研究大会[野々市町文化会館・菅原小学校]
第30回理事会 [野々市町フォルテ]

2003. 8. 27 第31回理事会 [六華苑]
(平成15年) **12.4 第14回石川県書写書道教育研究大会[金沢市西町教育研修館(金沢大学サテライトプラザ)]**
第32回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

2004. 8. 10 第33回理事会 [六華苑]
(平成16年) 12. 『石川県書写書道教育』(第26号) 発行

12.10 第15回石川県書写書道教育研究大会[松任市市民交流センター・蕪城小学校]
第34回理事会 [松任市市民交流センター]

2005. 10. 3 第35回理事会 [六華苑]
(平成17年) 12. 2 県大会準備会

12.9 第16回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]
第36回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]

2006. 10. 3 第37回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]
(平成18年) 11. 17 県大会準備会

11.27 第17回石川県書写書道教育研究大会[石川県立小松明峰高等学校・小松市立串小学校]
第38回理事会 [石川県立小松明峰高等学校]

2007. 10. 18 第39回理事会 [兼六荘]
(平成19年) 11. 28 県大会準備会

12. 4 第18回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立三谷小学校]
第40回理事会 [金沢市立三谷小学校]

2008. 10. 31 第41回理事会 [兼六荘]
(平成20年) 12. 1 県大会準備会

12.12 第19回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]
第42回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]

平成20年度 石川県書写書道教育連盟役員

〈☆印 新〉 (敬称略)

顧問 中西吉明<石川県教育委員会教育長>

相談役 坂口 敏 久田久信 氷田茂良 法水光雄 押木秀樹

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成
福田教導 永井志津子 中山武久 林道子 石浦義彦 林昭悦

会長 藤 則雄<金沢大学名誉教授・元金沢大学教育学部長>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長]	☆岩本弘子
[石川県私立幼稚園協会理事長]	田中辰実<千代野幼稚園園長>
[金沢市小学校教育研究会(書写代表)]	☆鈴木寿子<金沢市立朝日小学校校長>
[金沢市中学校教育研究会書写部長]	☆高田和英<金沢市立内川中学校校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	☆久下恭功<県立金沢錦丘高等学校校長>
[石川県特別支援諸学校校長会代表]	☆崎出喜作<県立ろう学校校長>
[石川書写の会会長]	長井珠子<金沢市立花園小学校校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	折川 司<金沢大学准教授>

理事長 永江芳教<県立金沢泉丘高校教諭>

副理事長

: 小学校部: 大浦 努<金沢市立森本小学校教諭>
: 中学校部: ☆福島絹子<金沢市立大徳中学校教諭> [金沢市中教研書写副部長]
: 特別支援諸学校部: 澤田清司<県立ろう学校教頭> [県特殊教育諸学校教頭会代表]

監事 古本佳世<兼六中学校教諭> ☆石野昌子<扇台小学校教諭>

理事

* 石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 谷藤真喜子<県教育センター指導主事>
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] ☆北島公之<県学校指導課指導主事>

* 金沢地区

: 小学校部: 石野昌子<扇台小学校教諭> 中川晃成<中村町小学校教諭>
: 中学校部: 古本佳世<兼六中学校教諭> ☆白石芳子<城南中学校教諭>
: 高校部: 田中学<金沢中央高校教諭>

*能登地区

- : 小学校部 : 奥原せい子<河井小学校教諭>
- : 中学校部 : ☆高 絹子<能登島中学校校長>
- : 高校部 : 懈喜代子<県立飯田高校教諭>

事務局

- : 事務局長 : 中川晃成<中村町小学校教諭>
- : 副事務局長 : 岩田稚子<金沢錦丘中学校教諭> 八田和幸<高岡中学校教諭>

: 庶務部

- 部長・田中学<金沢中央高校教諭> 副部長・堀順一郎<野々市中学校教諭>
- ・西脇良樹<越路小学校教諭> 山田千恵<月津小学校教諭>

: 会計部 :

- 部長・西尾恵美子<串小学校教諭> 副部長・山口雅美<安原小学校教諭>
- 部員・山沢聡美<御幸中学校教諭>

: 研究調査部 :

- 部長・水上真由美<金沢商業高校教諭>・副部長・柿木千鶴<諸江町小学校教諭>
- ・坂井雪絵<下甘田小学校教諭> 木之下知子<杜の里小学校教諭>
- ・倉下真澄<金沢大学附属中学校講師>・間野清美<旭丘小学校教諭>
- ・東山麻由美<鳳至小学校教諭> 飯田淳一<大徳小学校教諭>
- ・金野 豊<富樫小学校教諭> 永井重輝<森本小学校教諭>
- ・西谷 充子<諸江町小学校教諭> 岡野 美紀<邑知小学校講師>
- ☆黒川なつき<蝶屋小学校教諭>

: 会報部 :

- 部長・新谷幸一<三谷小学校教諭>・副部長・北野京子<諸江町小学校教諭>
- 部員・佃さえ子<泉野小学校教諭> 寺井純子<町野小学校教諭>
- ・岸瑞代<大聖寺高校講師> 中辻育代<能美小学校教諭>
- ・吉田美晴<浅野川小学校教諭> 水谷清美<千坂小学校教諭>

石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局）本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
（1）研究会の開催
（2）会報の発行
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力
（4）講演会・講習会の開催
（5）調査研究
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名
事務局長 1名 副事務局長 若干名
（1）事務局には、次の六部をを設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
（3）役員を選出と任期は、下記のように定める。
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。
（Ⅱ）役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。
- [附則]
- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定
平成 2年 5月 18日 一部改定

硯・筆・書道用品一式・水墨画用品一式
各種書画用額縁・表装・掛軸

文房四宝 **文真堂**

貸しギャラリー **文真堂** 中国古美術 **かしょう**

石川県金沢市尾張町2丁目11の28

☎(076) 264-1836 FAX(076) 264-1838

■営業時間／9:00～18:00 日曜日 10:00～17:00

■定休日／祝日 ■P／有

E-mail : bunshindo@nifty.com

ホームページ : <http://www.bunshindo.info/>

「**禅とは何か?**」—この問いに正面から向き合った、日本で初めての辞典!

禅の思想辞典



編著者◎ **田上太秀**
石井修道

A5判 上製本・ケース入り
定価12,600円(税込)

東京書籍
創立100周年
記念出版

【挨拶】 人として、もともと基本とされる日常的行為ですが、
その言葉の本来の意味とは?

【日は好日】 にちにちげこうにち。茶道においても使われる言葉ですが、
その真意とは?

◎インドに源を持ち、中国、朝鮮、日本に広まった「禅」とはどのような思想背景によって形成されたのか? 宗教としてだけでなく、芸術、茶道、さらに日本人の生活や感性深く根ざした「禅」を詳しく分析、解説する決定版。

東京書籍 書籍営業部 <http://www.tokyo-shoseki.co.jp>

〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 TEL03-5390-7531 FAX03-5390-7538

北陸支社: 〒920-0918 金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
TEL076-222-7581 FAX076-232-2719

技術と伝統・額縁と共に半世紀



株式会社

大 冒

本社 〒729-3497 広島県府中市上下町上下 1513-1
TEL (0847) 62-3517 FAX (0847) 62-4528
東京営業所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-16-5
TEL (0822) 42-3085 FAX (0822) 42-3251
福山営業所 〒721-0907 広島県福山市春日町6-14-24
TEL (084) 941-8161 FAX (084) 941-8048
額縁・衝立・屏風・掛軸 製造販売

墨 練習用から作品用まで

墨液

(練習用)
墨液
濃墨液



玄宗

(作品用)

普通
中濃
濃墨
超濃



墨運堂

〒630-8043 奈良市六条 1-5-35
TEL (0742) 52-0310
FAX (0742) 45-6880

創業百年、絶え間ない研究の精華を放つ

油煙磨墨液 純松煙磨墨液

天衣無縫

松潤

書芸吳竹



紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨

作品用書道液



Kuretake

株式会社 吳竹

〒630-8670 奈良市南京総町7-576
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

伝統的工芸品指定 熊野筆
高級書道用筆墨硯

(株) 久保田徳

筆匠 竹嶋

☎731-4215

本店 広島県安芸郡熊野町城之端 2-2-45

TEL(082)854-0019 FAX(082)854-5222

東京 東京都台東区台東 3-42-4

書道殿堂東京久保田号ビル



伝統的工芸品 熊野筆製造
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター
株式会社



本社 〒731-4215 広島県安芸郡熊野町出来度 2-2-44 TEL082(854)0019
FAX082(854)2112
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡 6丁目5-50 TEL0723(35)0605
東京営業所 〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 31-12-201 TEL045(942)4119
"アンテナショップ" 熊野筆センター 広島店
〒730-0013 広島市 中区 八丁堀 5-2-9 TEL082(222)1919

因州産紙
書道用紙
洋紙板紙
包装資材



株式会社

因州屋

〒680-0912 鳥取市商栄町 155 番地

TEL(0857)24-6611 FAX(0857)27-1811

E-mail insyuya@apionet.or.jp

高級列子額縁 各種特注額 器具製作
高級木製額縁 各種屏風・衝立

株式会社 サン美術工芸

933-0941 本社 富山県高岡市内免 4丁目-6-33
TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3851
*ホームページ: http://www.media-pro.co.jp/~sanbi

Eメール: san@p1.tcnet.ne.jp

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5

TEL 075 (812) 3318

(株)津田精工

白山市旭丘1-4

TEL 076-276-1311

日本画・洋画

美術部

掛軸
額装
屏風

襖貼
製作
仕事部

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

学校教材特約店

島野教材

代表者 島野英伸

〒923-0342 石川県小松市矢田野町イの41
TEL(0761)44-2622 FAX(0761)43-2828

参考書・心理検査・各種教材

株式会社 布村教材社

〒920-0811 金沢市小坂町中35-4
TEL (076)251-1702
FAX (076)251-1701

本・雑誌・文具・CD・楽器

知性と情操をおとどける

うつのみや

柿木島本店/金沢市広坂 1-1-30 電話 076-234-8111

年
松井
秀喜

大好評
あなたのお名前
の手本を
サービス

○名前書きの指導にぴったり
○長年使えるパウチ加工
○中央線も入って見やすい

ヤマガミの書道セットには
お手本ねーむがついてくる!

有限会社 ヤマガミ共育社
〒921-8001 金沢市高島3-154
TEL. 291-1250 FAX.292-8008

書籍・文房具・教材・教具

粟津書店

粟津祐治

〒924-0855 石川県白山市水島町168
TEL 277-0303
FAX 277-2505

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書 の 教育図書 ・ 教材
 - 毎日の学習教材 「はつらつ」
- ### 北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4
☎(076)232-2425(代)

金沢紙商組合加盟店

取扱品 紙・印刷・事務機器・ハンコ

二木紙店

金沢市金石西3-7-9
TEL 267-0503 FAX 267-5271



教材社

金沢・北安江

TEL 231-6773
FAX 231-6940

学校教材なんでも

㈱ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
<http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm>
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市諸江町中丁179-3
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
営業時間 AM 9:00~PM 11:00

光村の書写教材 光村図書版教科書完全準拠

●小学校書写 児童用教材

書写の練習 1,2年上下 3～6年刊 各320円(税込)

毛筆書写の練習 3～6年 年刊 各420円(税込)

●小学校書写 指導用資料(学校備品)

毛筆書写指導ビデオ(準拠外)全3巻 各9,975円(税込)

書写掛図(硬筆) 1,2年各1巻 各12,600円(税込)

書写掛図(毛筆) 3～6年各1巻 各16,800円(税込)

●中学校書写 生徒用教材

中学 硬筆練習帳 1年/2,3年全2冊 各350円(税込)

光村教育図書株式会社 〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-27-4
TEL.03-3779-0581 FAX.03-3779-0266

新しい時代へ
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

AO 能登印刷株式会社

本社●〒920-0855石川県金沢市武蔵町7番10号
TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559
工場●〒924-0013石川県白山市番匠町293番地
TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016
グループ会社●株式会社博文堂 シナジー株式会社

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-8202 金沢市西都2丁目92

TEL (076)267-2077
FAX (076)267-2078

書道、水墨画用品の激安専門店!

日本書道販売株式会社

ミドリヤ

本店 石川県能美市五間堂戊46-6
TEL 0120-58-4344 FAX 0120-58-4346
営業時間 10:00~18:00

画仙紙(紅星牌・福建紙・台湾紙・因州・伊予半紙・料紙・和紙)
和筆(広島熊野筆)、唐筆(上海工芸)
和墨(呉竹・墨運堂・古梅園・開明)
唐墨硯(端溪・老坑・歙州・澄泥・細羅紋)
印材(青田・巴林・寿山)、印刀(永字牌等)
色紙、短冊、和紙小物
額(書道額、デッサン額、水墨画用額)
表装、表装用品

★通信販売もしています

文 溪 堂

新 学 社

教育 同人 社

大和科学教材研究所

ア-テック



代理店

教材・教具・文具

藤田商店

小松市新鍛冶町13の1
TEL0761-21-3278

あすを築く教育のいしずえ

北陸青葉

学校教材販売

有限
会社

本田教材社

書道セット
かきかたノート
石川書写の会編
コンクール用紙

金沢市寺町1丁目3-26
☎ (076)241-1339
FAX (076)241-7705